

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ジョイール石垣（第1単位）		
○保護者評価実施期間	2026年2月3日		～ 2026年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44 (回答者数)	21
○従業者評価実施期間	2026年2月3日		～ 2026年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育による手厚く専門性の高い支援体制	マンツーマンの個別指導を基本とし、一人ひとりの特性に合わせたオーダーメイドのプログラムを作成している。支援に携わる全指導員の意見を取り入れた個別支援計画を策定している。	TASPやVineland-IIなどのフォーマルなアセスメントツールを段階的に導入し、支援の客観性・精度をさらに高めている。
2	保護者との密な情報共有と信頼関係の構築	連絡帳や送り迎え時の対話、コミュニケーションアプリ（チャット）を活用し、日常的にお子様の状況を共有している。保護者評価でも「子どもが安心して通所している」「通所を楽しみにしている」との回答が高い。	ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムを年間計画に組み込み、定期・定例の開催体制を整備する。
3	安全管理・リスク対応の組織的な徹底	毎朝のヒヤリハット共有、月1回の避難訓練実施と保護者への報告、業務継続計画（BCP）の策定など、安全管理を組織全体で取り組んでいる。	非常時対応マニュアルや安全計画の内容を保護者へより丁寧に周知し、家庭との連携による安全確保体制を強化する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援前後の職員間の打ち合わせ・振り返りが不十分	個別療育中心のシフトのため、スタッフ全員が集まる時間の確保が難しく、現状はオンラインツールや個人間の情報交換に留まっている。	短時間でも支援前後に全員が参加できる仕組みを設計し、チームとしての気づきの共有と翌日の支援改善に繋げる。
2	地域交流・保護者同士の交流機会の不足	個別療育主体かつ土日祝休みの運営形態のため、他のこどもや地域との接点、保護者同士のつながりを生む機会が構造的に少ない。保護者評価でも交流機会への「いいえ」「わからない」の回答が目立つ。	地域行事への参加や保護者交流会の年1回以上の定期開催を年間計画に盛り込み、家族支援の充実を図る。
3	第三者評価・客観的アセスメントの活用が不十分	第三者評価の実施状況が職員間で共有されておらず、フォーマルなアセスメントツールの導入も仕組み化できていない。支援記録も保護者報告中心で、検証・改善に活かしにくい構造になっている。	同グループ内での相互評価の定期実施と、TASPなどの標準化されたアセスメントツールの段階的導入により、支援の客観的な質保証体制を構築する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ジョイール石垣 (第1単位)

公表日 2026年3月31日

利用児童数 44

回収数 21

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	1		3		設備基準を遵守し、備品を整理して安全な空間の確保に努めています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12	2	1	6	入所したばかりで適切か分からない。	基準を上回る人員配置を行い、一对一の個別療育が実施できる支援体制を心がけています。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	2	2	4		お子様の特性に合わせて、活動内容が理解しやすい環境設定に努めています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15	2		4		毎日の清掃と消毒を徹底し、清潔で居心地の良い空間維持を心がけています。
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	2	1	1		研修を通じて職員の専門性を高め、特性に寄り添った支援に努めています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19			2		公表しているプログラムに基づき、一貫性のある支援を心がけています。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19	1		1		定期的にアセスメントを行い、ニーズに沿った最適な計画作成に努めています。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19		1	1		ガイドラインを遵守し、本人や家族に必要な支援設定を心がけています。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18	1		2		日々の活動が計画に乖離しないよう、活動記録と共に毎支援後に評価を行うよう努めています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	1		6	入所したばかりなので分からない。	お子様が飽きずに取り組めるよう、多彩なプログラムの提供を心がけます。
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	8	3	3	7	入所したばかりなので分からない。	個別療育を優先しつつ、地域との交流機会についても検討し周知に努めます。
保護者 へ	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18	2		1		契約時には運営規程や負担金等について、説明を行っています。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20			1		計画書作成時には目標や内容を分かりやすく伝え、共有に努めています。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	4	4	4	入所したばかりなので分からない。	ペアトレ等の情報提供を強化し、ご家族を支える支援の充実に努めます。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19		1	1		連絡帳や送り迎え時の対話を通じ、お子様の状況を密に共有するよう心がけます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	1		2		モニタリング面談を定期的を実施し、子育ての助言や相談対応に努めます。
17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	1	1	1		保護者の思いに寄り添い、共に成長を見守る共感的な対応を心がけます。	

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	3	5	8	入所したばかりなので分からない。	交流の場を検討すると共に、相談しやすい雰囲気作りを常に心がけます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	1		1		コミュニケーションアプリ（チャット）を活用し、お困りごとに迅速かつ丁寧に対応するよう努めています。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	2				円滑なコミュニケーションを図り、確実な情報伝達ができるよう努めます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16	2		3		ホームページやインスタでの発信を増やし、事業所の活動の可視化に努めます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17			4		守秘義務を徹底し、大切なおお客様の個人情報厳重に管理し努めます。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	2	1	10	入所したばかりなので分からない。	各種マニュアルを再周知し、緊急時の対応を正しく伝えるよう努めます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	1		14	入所したばかりなので分からない。	訓練の実施内容を具体的に報告し、安心感に繋がる周知を心がけています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11	2	1	7		避難訓練の実施内容を共有し、お客様の安全を最優先した支援に努めます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	2	1	9	そのような状況になったことがない。	発生時は迅速に連絡し、状況と再発防止策を丁寧に説明するよう努めます。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	20	1				安心できる居場所となれるよう、信頼関係の構築を大切に心がけます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19	2				笑顔で通っていただけるよう、興味関心に合わせた支援に努めています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	17	2	2		まだ通所回数が少ない為、分からない。	今後の評価を真摯に受け止め、更なる満足度向上を目指し改善に努めます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ジョイール石垣 (第1単位)				公表日 2026年3月31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		遊びと学習のスペースを柔軟に設定し、視覚的なスケジュール提示で活動の見通しが持てるよう努めています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		・個別療育により、一人ひとり手厚く支援できる。 ・マンツーマンで対応出来ている。	・施設基準上は問題ないが、個別対応が必要な利用児が多いときには不足感がある	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	・備品の置き場所を写真等で示している	備品の定位置化など構造化を継続しつつ、運動機能障害を持つお子様の受け入れ環境の検討にも努めます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1		日々の整理整頓と清掃を徹底し、お子様が視覚的に混乱せず、清潔で落ち着いて過ごせる環境作りに努めます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・集中して取り組めるよう備品を極力置かない個別指導室を設置した ・個別、大部屋どちらも使用できる環境にある		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		全職員が目標設定と振り返りのプロセスに参画し、一丸となって支援の質の向上に繋げるよう努めています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	保護者様からいただいた貴重なお声を真摯に受け止め、日々の療育内容や運営の改善に迅速に活かしています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎月の1 on 1の実施で上長に意見しやすい		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		同グループの他事業所との相互評価や意見交換を行い、客観的な視点をういたサービスの質の改善に努めます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・隙間時間に視聴形式で研修を受けられる機会は有難い	勤務時間内のWEB研修受講をさらに促進し、職員が最新の専門知識を支援に還元できる体制構築に努めます。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	特定のマニュアルがあるだけでなく、子どもに応じてプログラムを組んでいる	お子様一人ひとりの特性に合わせたオーダーメイドのプログラム作成を継続し、その公表と共有に努めます。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	1	ニーズの客観的な分析を徹底し、ご家庭と事業所の目標が一致した実効性の高い計画作成を心がけています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		支援に入っている指導員全員からの意見を取り入れている	支援に携わる全指導員の多角的な視点を取り入れ、お子様の最善の利益を考慮した支援方針の決定に努めます。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		個別支援計画の内容を職員間で常に確認し合い、目標達成に向けた一貫性のある療育の提供を心がけています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2		今後はTASP等の評価ツールを導入し、より客観的でフォーマルな実態把握に努めます。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			ガイドラインの4つの柱に基づき、具体的なねらいと支援内容を設定し、お子様の成長を支える計画に努めます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1		・それぞれの支援員に任されている。個々のスキルアップとしては、定期的に立案を全体で行ってもいいかもしれない。 ・長期休みについては行っている。平日は個別指導なので、情報交換はしているがチームで行っているわけではない
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			豊富な個別課題のバリエーションを整理・把握し、常にお子様の興味に合わせた新鮮な刺激の提供に努めます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	・個別学習終了後に小集団で遊びの時間を設けることで、お友達とのやりとりを学べる機会を設けられている ・個別療育を軸としつつ、遊びの中で小集団活動を通してお友達との関わりを学ぶ機会の提供に努めています	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2	・個々で記録をとり、気になる点についてはLINEで共有を図っている。 ・オンラインでの情報交換は行っている	オンラインツールや記録を活用した事前の情報共有を徹底し、チーム全体で役割分担を明確にできるよう努めます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3	・個々で記録をとり、気になる点についてはLINEで共有を図っている。 ・気づいた点、気になる点などはメモに残し、次回以降も見返すことができる形を取っている	個々の記録共有に加え、スタッフ間での直接的な振り返りの時間を設け、気づきを翌日の支援へ繋げるよう努めます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1		保護者への報告だけでなく、支援の検証や改善に直結する専門的な記録の充実と分析に継続して努めます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		お子様の成長段階に合わせて定期的なモニタリングを行い、常に最適な支援計画への見直しを心がけています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1		状況を熟知した担当者が会議に積極的に参画し、関係機関との緊密な連携と目標の共有に努めてまいります。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		医療、教育、福祉の各機関と網目状に連携し、地域全体でお子様を支えるための体制維持を心がけています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			併行利用先等との情報共有を密にし、お子様が地域の中で豊かな経験を積めるよう相互理解の促進に努めます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1		小学校や特別支援学校へのスムーズな移行を目指し、これまでの支援の蓄積を丁寧に取り継ぎよう努めます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					

連 携	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	3		ペアレント・トレーニング等のプログラムを年間計画に組み込み、定期的な開催と情報提供ができるよう検討していきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	4		個別療育であることと、土日祝日は休みのため機会を用意できていない。年1回でも実施できる仕組みを考えたい。 個別療育主体の為、現在は機会が限られていますが、地域行事への参加など外向的な活動の仕組み作りを検討し努めます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			日々の対話を通じ、発達状況や課題をリアルタイムで共有し、ご家庭と足並みを揃えた一貫性のある支援に努めています。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2		家族支援を年間計画に組み込み、定期的なペアトレ開催や情報提供を定例化できるよう、体制の充実に努めてまいります。
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	変更等ある場合は、面談を設定しお伝えしている。面談は対面、電話選べる。	契約時だけでなく、変更の際も面談等を通じて丁寧に説明を行い、納得と安心を得られる対応に努めます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	1		お子様の意思表示が難しい場合も、行動観察等を通じて想いを汲み取り、ご家族の意向と共に計画へ反映します。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		計画内容を丁寧に説明し、支援の方向性について保護者からの確かな同意をいただくプロセスを大切にしています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			悩みや不安に寄り添った面談を定期的に行い、ご家庭での関わり方への具体的な助言と精神的な支援に努めます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	4		保護者同士の交流や兄弟児への配慮についても、アンケート等を踏まえ具体的な支援策の検討に努めます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			相談窓口を明確にし、いただいた申入れには迅速かつ誠実に対応することで、運営の透明性と信頼向上に努めます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	2	活動概要はMEOの形で発信している。行事予定は連絡体制等をSNSを使って発信しているが、公に発信はしていない。こどもに対して発信することはない	SNS等を活用した活動内容の可視化を継続し、事業所の取り組みをより広く正しく知っていただけるよう努めます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			個人情報の取り扱いに関する規程を遵守し、お子様とご家族のプライバシーを厳重に守る体制維持に努めます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		お子様の障害特性や保護者のニーズに合わせた情報伝達を心がけ、円滑なコミュニケーションに努めています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4		地域住民の方を招いた行事や、地域資源を活用した活動の検討を通じて、社会に開かれた運営を心がけます。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		毎月の避難訓練を徹底し、結果を保護者へも報告することで、非常時の安全確保体制の構築に努めています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			業務継続計画に基づいた具体的な訓練を定期的に行い、災害時にもお子様の安全を最優先に守る備えに努めます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			服薬状況やアレルギー、既往歴等を詳細に事前把握し、日々の体調変化にも機敏に対応できるように努めます。

非常時等の対応	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	現状、アレルギーで配慮のある児童はいない。	医師の指示書に基づく正確な対応手順の再確認に努めます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			研修や日常点検を通じた安全管理を徹底し、お子様が事故なく安心して活動できる環境の維持に努めます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		安全計画の内容や日頃の安全対策について、保護者への周知をさらに進め、安心感の醸成に努めます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		毎朝の共有を欠かさず行い、小さな予兆から再発防止策を組織全体で検討し、事故防止の徹底に努めています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			研修による正しい知識のアップデートと、日々の不適切な関わり合いの相互チェックを行い、権利擁護の徹底に努めます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	1		身体拘束を行わないことを基本とし、やむを得ない場合の組織的判断基準の明確化と事前説明の徹底に努めます。